

起案紙第一號

起案紙第一號

明治三十四年二月三日起案

二月八日發行

發行後處
林者林印

製圖部

製圖部

製圖部

製圖部

製圖部

製圖部

製圖部

製圖部

製圖部

提條

艦政本部長

第三部長

第四部長

部員

大臣

次官

參事官

副官

會計課長

軍務局長

局員

經理局長

經理局長

佐藤第四号の第六軍艦常艦長室及航

明治三十四年二月

海軍大臣

海軍

海軍

0815

海長室ソリファリ新設件別回通リ改正ノ上
認許ス

(別回を系係)

(係)

海長室

0816

艦政本部

第三第
計四

第三第

一月廿三日進達

佐廠第

二號

六

經理部

出

明治四十四年

一月十九日

佐世保海軍工廠長黒井悌次郎

佐世保
海軍工
廠長印

海軍大臣男爵齋藤實殿

常務取締役工部新設件

軍艦常務機長室及航海長室の二部新

設に於ては、通商手続を簡便し、必要

の爲め、修繕進行に成る

右に申す

台

印

工部新設に
係り、必要
の爲め、修
繕進行に成
る

添

了

参謀長

機關長

印

印

印

印

印

印

官房第二四〇號

海

軍

0817

軍艦常磐機関長室及航海長室ソーパー
新設工事方案入費概算等調書

一 工事方案

面通リ機関長室及航海長室ニソーパー新設

スルモノトス

二 入費概算

材料費 壹六〇.〇〇〇

工費 四五.〇〇〇

附屬費 参弍八.〇〇

合計 貳参七.八〇〇

三 工事日數

着手後 拾五日間

毎

日

四、重量増減

目下傾斜試験成績表調製中ニ付終了後精確ナル
結果ヲ報告スル筈ナリ

右

明治四十四年一月十八日

佐世保海軍工廠造船部長白井頼吉



0819

寫

常盤石第九三七號

明治四十三年十二月二十日 於佐世保

常盤艦長水町元

佐世保海軍工廠長黒井悌次郎殿

船体部新設ノ件

一 機関長及航海長室ニソツプア一各一ヶ所新設件或所

理由從來本艦ニ右設備無之不便ニ付取付ケレ度

右請求ス

終

海軍

起案罪紙第一號

明治三十四年二月九日起案

起案者 佐

二月三日發行

發行所 東京

發行後起 東京

東京

提案

艦政本部長 藤本

第三部長 福田

福田

部員

藤本

台

台

大臣

副官

井出

小林

會計課長 齋藤

齋藤

部員

藤本

台

台

台

次官

參事官

軍務局長 柄

局員 中野

中野

經理局長 藤

主任局員

藤

明治三十四年二月十三日

海軍大臣

兵工第四号、一四三三軍艦生駒錨鎖繫止

發送官房第二四三號

東京

0821

装置改造件認許ス

海軍

純

0822

艦政本部

第三號

第三
第四
會計

司令長官

參謀長

參謀

相

一五七

吳 44.1.23

四一四一

副官

明治四十四年一月二十日

吳海軍工廠長伊地知季珍

經理部 一課長 秀次

海軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦生駒鉤鎖繫止裝置改造ノ件

本件ノ繪圖紙生駒第四三號抄本ノ通り合艦長ヨリ請

求有之精査候處實際必要ト認メ之ガ二事方接等尤記

通り計画致候改造方御認許相成度

右申上

二事方接

別紙裏面ノ通り在来ノコントマラシラ廢シプレキストパー及スクリ

官房第二四二號

海軍

0823

トキストップパーヲ新設ス

一入費概算

材料費 貳百六拾七圓
工費 四百貳拾八圓

一工事日数

五拾日間

一重量増減

ナシ

(子)

海軍

0824

寫

生島的業電之類

生島的業電之類

生島的業電之類

生島的業電之類

船体部修理(改造)請求之件 (秘本)

二 コントローラー

三ヶ所

理由従来、実験に徴スルにコントローラーは
コントローラー使用スルコトナク投錨際徒らに
手数ヲ益ス而已ナラス屢々折損修理多

海

軍

0825

右請求ス

要シテ其附根ノ如キ漏洩止ト止ラ
知ラズ其際密下ノ金歩スルコト利益ナリ
アレ而シテ船中ノ錯々固定スル為メ
スリッブ及セキユアリトナシヨリヨリ
遊隙ヲ生シ動搖ノ余地ヲ存スル虞アリ
免シズ更ニホースホルンニ近ク繋止用
金物ヲ設ケ固ク繋止シ得ん様装置ス
ヲ要ス

終

(國防沙眼株式会社)

0826

起案罪紙第一號

明治三十四年三月八日起案

拾九日發行

提筆

大臣

次官

參事官

副官

會計課長

艦政本部長

第三部長

第四部長

福田部員

第一部長

水電

水電

軍務局長

局長

經理局長

軍令部長

明治

吳王第四号

第二班

第三班

海軍大臣

石

政

造

發售日房第二四三號

二

五月十日

官房授受

0827

5-3-7

艦

認許ス

〆

但下甲板後部諸室別向通リ変更之ル又
所要兵器ハ海軍艦政本部長ヲシテ之ヲ配給セ
シテ造兵ニ属スル費用ハ經常部造兵費ノ支
辨トシ請求ヲ待テ別途配附ス

(別圖一葉添)

終

製圖室
手紙

一部製圖室
電線
白電増設
配電盤改修
配電盤換止

艦政本部

第三
第四
會計

司令長官
在

第... 第九

明治三十四年一月廿三日

海軍工廠長伊地知季珍

機関長

海軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦明石艦入換、為、船体部改造、件

今、軍艦明石艦、船体部、特定修理施行、付、船体

部、改造別紙方按、通り施行方御認可相成度

右、上申、大

(別紙、添付、添フ)

参謀長

参謀

副官

五七

〇

44-1 23
44-1 28
艦政本部

艦 四

0829

2-23

目録

一 軍艦明石改造工事方按

造船部所掌

造船

二 全

水雷部所掌

水雷通

一 軍艦明石送風電動機電路箇

水雷部所掌
共一其二

造船

一 軍艦明石配電盤改造箇

全

造船

一 軍艦明石改造に伴つ電燈増設箇

全

造船

(3)

(發防抄紙株式会社納)

軍艦明石改造工事方格

水雷部所掌

一 工事方格

電燈工事

無線電信室及火藥庫改造に伴ヒ別番及ヒ別表通り電燈ノ
増加ヲ要ス從ツテ之ニ伴フ電路一部ヲ布設換ヲナス電路極ハ
増設ヲ要セサル見込ナリ

送風機電路

火藥庫冷却用送風機電路別番通りトス

無線電信室

無線電信室三四式送受信機ヲ取付ケ電機交流機ハ一五キワ
トノモノヲ据付ケ電機交流機ニ至ル電路ハ系電機室配電盤ニ設ケ

0831

ル切斷器・依り布設スモトス

糸電機採装

現在使用電流ハ白熱燈一五〇、探照燈三〇〇、揚聲機六〇、ヒンジ別
 紙明石船長ノ修理請求書(明石三四ノ二一) 差主 甲検明一五三 新設ノ部
 (3)ノ通り不足ナリ而シテ今用無線電信用電機交流機ノ為メ約五〇
 送風機新設ノ為メ六五アムヘアヲ増加スルガ故ニ此際一〇〇アムヘア
 電機ニ台ヲ四而アソヘテ糸電機一台中採装シ又現在ノ二〇〇アムヘア
 電機ハ同請求書新設ノ部(2)ニ記載セテ通り電圧ヲ調整スルニ由
 磁調整器ヨリ回転ヲ以テ調整シテ不便利ナカ故ニ二〇〇アムヘア電
 機台ニ對シテ別ニ由磁調整器ヲ新製シ取付ルモトス

配電盤

0832:

配電盤ハ令前請本書修理ノ部(五)ノ通リ甚ク旧式ノモノニテ計器等ハ到底依頼シ能ハサルモノナリ依テ此際計器塔ハ新々ニ換装シ二〇〇アマペア一台ト四〇〇アマペア一台トヲ並列運轉シ得ル様別紙配電盤圖ノ通リ改造スルモノトス

通信装置

前艦橋ト無線電信室間ハ高聲電話器ヲ新設シ無線電信室ト電報交流機室間ハ筒分傳声管ヲ及交流機室ヲ糸電機室間電鐘分傳声管ヲ新設ス

二好要兵器

別紙電燈増設ノ分 直流電流計三〇アマペア 一個 直流電圧計五個 直流計三〇アマペア 一個 電報交流機一台 電報送受信機 一切

毎

個

0833

海軍

四重量増減

✓ 五千貳百参拾八斤増

五ノ事日子

参拾日向

③

(藤防抄紙株式會社納)

0835

電路接新器	小	一〇	三	七	炭庫燈用
改造ノ為メ不用トシテ電燈	水田ノ毛ノ	四	四	炭庫燈用	
レバシテト燈	手此用甲	高壁燈	片道	正ノ式受金共	二個
右田通路	アノシ毛ノ	高壁燈	片道	正ノ式受金共	二個
一移動自熱電燈	手此用甲	電燈接檢接統共	志何		
右田士官改室糧食庫	アノシ毛ノ				

注 算

0837

兵器部

修理部

(一) 第一機油圧油管破裂部修理

一ヶ所

理由 油圧油管取付部破裂を生じ使用に支障を来す油圧油管の修理を要す

(二) 上下甲板間差込線電路

全部

理由 長時使用より電線一筋の差込部が又電圧降下を起し危険甚し線路の検査を要す又時々短電路を起し危険甚し

キコ付試験の上取替を要す

(三) 一二号空圧機新製取替

二台

理由 空圧機十ヶ所の改修を要す

毎

毎

0839

四) 分電路管接続管

理由 前後程倉庫内分電路管は位置悪しく荷物積
上ア場合に接点ノ不働不敷付又管甲
分電路管一似ニテ漏電ノ箇所取調ニ等ニ関シ不便
之ニ依リ修理ヲ要ス

五) 配電板修り

志組

理由 従来ノ配電板は長時ノ使用ニ依リ所々腐蝕
タルアリ又電カノ増加ト共ニ従来モニテハ稍ヤカニ留キ他
ノスイッチ等ニ表露セシムル困難ナル付又配電板ヲ他ノ
配電機ニ電流ヲ移スニテ尚且シテ後ニ他ノ真摯セザ
ルニカラン等不利ナル付此際新規修理者クハ改修ヲ

(電路修繕部)

0840

要

(六) 三時發電機停止計

理由 右の使用ノ結果指針不具合ニテ機員ニテ修理不可能

二四

付

(七) 發電機用ベルトメーカー

二四

理由 取單使用ノ結果指針不正確ニ付検査ノ上修理

ヲ要ス

(八) 發電機用アシニアメーカー

三四

理由 右の取單使用ノ結果指針不整ニシテ漏電云々

付

海

軍

0841

兵部

新設ノ部

(1) 一柳發電機蒸氣管之令高及塞止弁ヲ作ルコト

理由 今蒸氣管ハ無機材管補助蒸氣管ヨリ行支シテ誤

管ヨリ低位置ニシテ發電機ニ至ルコトシテ補助蒸氣管内疏水ノ常

ニ誤行支管ニ集積シ且ク減圧弁ニ發電機ノ傍ニ見テ疏

水ノ對シテ何等ノ効果ナク運轉中ニ生々疏水ノ流下

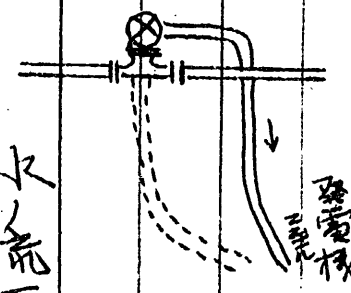
シテ管内ニハ危険甚シキ付補助管内發電機ノ如ク分

高器ノ新設必要ト認ム又發電機ノ運轉セザルキハ

故令高器ノ常ニ疏水ノ集積ヲ見ルコトシテ尙如ク差

止弁ヲ設ケ疏水ノ下流ヲ設ケ疏水ノ流下ヲ始クニ必要ス

0843

(3) 二台のポンプノホルト發電機一機ヲ新設
 行ヒシヨリ不便付
 理由各發電機ヲ終末ノ電圧ヲ調整スルニ因轉教シ以テ
 (2) 各發電機ニ若シテ電圧調整器新設
 同機ノ分路器機在案ノ解放検査シ得ル標改修
 必要
 水流下リ妨ト同時ニ又分岐其ノハ必ス差止弁ヲ設ケ
 異同ノ如ク幹管ノ上部ヨリ道ヲ以テ疏
 (真線ニテ示ス) 直接下方ニ道ヲ下リテ解シ
 管ノ幹管ヨリ岐管ニ道ヲクニ現存ノ如ク
 發電機


0844

現由發電機の月下三百アリアを以て十ト一ト百アリア三台
 二百アリア一台ナリ船内一般ノ白熱燈電燈機摺動機並線
 電燈等ノ電燈を以てし是等ノ四百アリアニ電カ不足シ
 甚し殊ニ艦中船中機等ノ場合ニ上下甲板ノ白熱燈
 大部分ヲ消燈スルコトナリ電燈不足ニ有様ナリ故ニ車
 船員等同様ニ二百アリアノ十ト一ト多ク一台ヲ増設シ特
 定修繕ノ旨ノニ電燈機等ノ増加ト苦難設スルヲ必要ト認ム

（海軍省海軍省）

軍艦明石改造工事方策

一 櫓

後櫓ヲ全廢シ其トツプマストヲ前櫓ニ移シテ吃水
線上百四十呎、高サトシ、ローヤルトラックレヨリ十呎下方
ニ長十五呎ノ集録電信用ボードヲ設ケ架空
線ヲ吊下スルニ必要ノ装置ヲ施ス上部ヤードレ
位置ヲ小シク高ク後櫓ノガブレヲ移ス尚適當
ニステー、設ケ下櫓ステーヲ除ク、外鋼果ニ絶
縁装置ヲ施ス

一 後部煙囪

現在、後櫓ノ十四呎十呎ノ小形ニ改造
下部ハ其前面及後面ノ一部ヲ鋼板ニテ圍
ニ所要ノ窓ヲ設ケ羅針盤水雷方位盤等ヲ

0846

取付々艦橋上ハ後橋トツプノ探海燈ヲ振
付ケセマホリ信子器距離測定儀等ヲ置

一 端舟装置

三十六呎キグレニ隻ヲ添シ三十六呎

カッターヲ中央右舷ニ二十七呎傳馬船ヲ中央

右舷新設シ中央右舷ノ二十四呎通船ヲ後部

右舷キグレノ位置ニ移シ格納ノ際ニ二十七呎傳馬

船重載ノ又ハ蒸汽船ヲ前部ニ十八呎カッターシ

ト三十呎トシテ同ジクニ十八呎カッタート各其位

置、交換セシム

魚線電信室

副長室 機関長室

以テ魚線電信

0847

室、充テ之ヲ兼信受信ノ兩室ニ區劃シ其周圍ハ
 充分ナル隔縁装置ヲ施シ室外ハ四三式集線
 電信器械ヲ裝備スルニ必要ナル設備ヲ施シ
 引込口其個ヲ設ク尚明取適風ヲ設クルモノトス
 集線電信用三キ品ツト電機交流機ハ中甲板
 水雷室外水雷要具格納所ニ据付ケ必要ナル
 設備ヲ施ス

一 諸室

集線電信室新設ノ為ソ先ヒタル士官室二個
 神填トシテ一ハ旧集線電信室一ハ下甲板左舷
 現在ノ士官室ヲ二大分ニ改造ス亦豫備室トシテ
 士官糧食庫ヲ改造シ且士官病室ヲ兼用トス

0848

士官次室糧食庫ヲ事務室ニ改造シ平常ハ機關
 官事務室ニ旗艦トナリシ時ハ幕僚事務室ニ
 使用シ得ル様設備ス
 士官糧食庫及士官次室糧食庫ハ之ヲ前部厨
 室ト爲シ事務室ニ移ス
 兵器 九ターレ甲板後部艦橋及艦長室ニ据付ケル
 四十七糎砲六門ヲ撤去ス
 石炭庫増設 前走室兩舷側ノ通路ヲ石炭庫
 改造シ必要ナル設備ヲ施ス
 主室四重底板ノ十听鋼板ヲ十七听半鋼板ニ改メ
 ケツジアンカー一挺ヲ撤去ス

0819

一 前部コバノリワケノ後方取付ニ中三呎長四呎張出

ヲ敲リ

汽上扉降口 如別圖改造シ且灰揚筒ノ位置ノ少

シヲ移動ス

明細表記載ノモ、
本十二年三月二十八日便科
試験ノ結果
改造後

排水量	吋 水	ツリム	T.G.M.
2762.9	F/14 - 1 5/16	3' - 3 3/8	1.42'
2920.6	F/14 - 6 1/2 A/18 - 5 2/16	3' - 10 15/16	1.43'
2847.5	F/14 - 4 A/17 - 6	3' - 2'	1.61'

0850

一 予弄

材料費金 五萬四千餘圓

二 費金 九千九百餘圓

合計 五萬四千餘圓

附 費金 三萬七千餘圓

一 予弄 五萬四千餘圓

0851

起案紙第一號

明治三十四年一月廿六日起案

起案者 捺印

二月三日發刊

發行所 捺印

捺印

捺印

捺印

樞密

艦政本部長

第三部長

部員

大臣

副官

小第一部長

部員

次官

參事官

會計課

部員

軍務局長

局員

經理局長

庶務局員

明治三十四年一月三日

海軍大臣

橫鎮司令官

驅逐艦砲座補強件

官房第三二七號

海軍

重慶増減表取

豫算文書

豫算文書

豫算文書

和

漢

2/2

0852

0852

36

1-28

第一驅逐隊各艦三吋砲を補強方別隊
 同面通り工中施行せしむ
 右訓令云々
 (別頁駆逐隊の砲台を補強) (免)

第一駆逐隊 有明吹雪 雲敷 弥生
 第二日 神風 初雲 如月 御音

0853

經政本部

第一三
會計部

第三
會計部

印

橫廠第五號二

明治四十四年一月十日

致本橫濱製海軍工廠長

福田

松本海軍工廠長啟

驅逐艦砲座補注件

艦本第四一四二號中突會驅逐艦砲生件有明

型ノ最新調査処前却艦砲短三寸砲台脆弱付別紙

番知通補注方針圖ノ豫算表等相添

右提出

（圓筒砲台及重量増減表等去來添）

海

軍



1-17

15-167

0854

三
17

有明型前部舷側短三叶砲台補給機
工事豫算書

一金百五十元

内訳

工費金五百拾元

材料費金五百拾元

附属費金百拾元

工事日数 拾日間

(終)

有明型短三吋砲座改造豫算書

造兵部所書ノ分

一金六拾八圓四拾錢

撤去五
据付共計附分

内譯

工費金四拾貳圓

材料費金拾八圓

附屬費金八圓四拾錢

工事日数着平后志週間

重量増減十

0856

艦政本部長

第三部
第一會
計部

第三部
計部

横廠第五號二二二

明治四十四年一月廿日

福四

松本海軍政本部長殿
取奉横廠第五號二二二

駁送艦砲生之案件

昨午上付艦本第四四二號決案會之原之本件有
明型種之補給方案等、通横廠第五號二二二
二、以手提出海軍省在港各艦砲生取調等
処左記、通之

存明、吹雪、霰、掃生、掃風、掃雲、如丹
衛署



會

1-21



0857

右三隻の最新艦艇短三時砲台腕弱付
補給の要を(補給計画の機敏業務
を以て提出通り)

皇月、文月、山月、若菜、敷波、

右五隻の艦際補給の施り

雷、曙、艦

右三隻の欠陥を治すに代り調査

進子存明、若菜、補給方の注意

決裁議相成極致度

右進加回各々



0858

起案紙第一號

明治四十四年一月

日起案

檢印

二月

日發月

檢印

檢印

檢印

檢印

檢印

提集

艦政本部長代

村松

第三部長

部員

檢印

檢印

檢印

大臣

次官

副官

參事官

井出

小村

第一部長

村松

檢印

檢印

檢印

會計課長

軍務局長

病

局員

檢印

檢印

經理局長

檢印

主任局員

檢印

明治四十四年一月四日

海軍大臣

吳鎮司

砲臺補強件

發送官房第三四四號

海軍

製圖室

砲臺計

檢印

檢印

檢印

檢印

檢印

0859

第五第六驅逐隊各艦ノ砲座補強方是正第
 四号ノ四三五ヲ修テ正病長ニシテ艦長トシ是
 出シタル方案ヲ據リ尚右別回ノ如ク補強ヲ増加シ
 之ヲ施行セシム

右訓令云々

(別回 駆力四〇三ノ
 駆力四〇九ノ 方案係)

(終)

0861 0860

第五第六驅逐隊各艦ノ砲座補強方是正第

四号ノ四三五ヲ以テ工務長ヲ一艦政本部長ニ提

示スル方策ノ由リ工務中施行セシムル也

但潮子日二艦別回由リ補強増設

右列合ス

(別回驅為四三三号ヲ奉命)

(終)

第五驅逐隊 潮 子日 若葉 朝風

第六回 春風 初雪 時雨 初春

0861 0860